

ストライキ通信 (フランス TOYOTA の CGT&FO チラシ)

N0.1

スト中のトヨタの労働者たちから皆さんへ！

2009.4.7

月曜日

昨日の朝、5:30 から青色組はストライキを始めた。60人でストを始めた私たちは参加者を増やすために様々な仕事を訪れた。いつの間にか、100人になった。

小さなグループになって、私たちはどんな行動と要求をすれば良いのかを話し合った。

黄色組は昨日 14.00 からすでにストを始めていた。青色組は私たちを待っていた。私たちは230人になって会議を始めた。

同時に私たちは数十人の仲間を説得して、ストに参加するように説得して勝ち取った。

皆で同じ要求を出した。賃金を削ることに反対！ステーキを買う時、割引が無いように！

月曜日、一日中がんばったが、社長は私たちと話し合うことを拒否した。私たちが騒いだのに。

夜 22.00, 緑色組は圧力にも負けずに私たちを支援しに来た。150人の内に97人の緑色組の仲間は怒りをもって工場の中をデモ行進をした。

このチラシを作成する時、雰囲気はとても良くて、参加者たちは増えて来ている。

要求項目。

ストライキ参加者の過半数が一時的な休業分の100%の賃金を要求する。

以下のことについて話し合った。

Faurecia Somain 社の労働者がストをした結果、昨日、日給+1000?をもらった。

労働者たちに対しての思いやり不足、圧迫と強制等について話し合った。

ストの日数に応じる賃金を TOYOTA から払ってもらうことについて。

トヨタフランスの Didier LEROY 社長が先週の木曜日に、「彼らに賃金の100%を支払うよりも、私が死ぬ方がましだ！」と言ったことについて。この言葉から彼を裁くべきである...」。

火曜日の今日。

ストは続く。参加者たちは増えて意見を出している。

ストをしない方が良いという人たちは一時的な休業分の賃金をもらっている。

ストをすることは法律で認められている一つの権利である。

あるリーダーが言うように職場放棄ではない。

私たちがストライキをするのは、自分たちを人間扱いされるためである。

ストライキは労働者の力、社長たちにとっては弱点である。

N0.2

2009.4.7. 夜 23.00

スト中のトヨタの労働者たちから皆さんへ

火曜日。昨日は、311人がストに参加した。今日の参加者は384人になった。

青色組は経営者の事務所を侵入した。LEROY社長に会った。彼は「一時的な休業分の賃金の100%を支払えない」と言った。

私達は「それは信じられない！」と言って、数年前からTOYOTAがどれほどの膨大な利益をもたらして来たかを思い出させた。

黄色組の180人たちも経営者の事務所へ。LEROY社長はその時、現場を回っていた。

その時、彼は先週の木曜日、「彼らに賃金の100%を支払うよりも、私が死ぬ方がましだ！」という誤まった言葉を発した。

当たり前のことであるが、その誤りを認めることはあまり彼の負担にならない。

私たちが要求をするのは「一時的な休業分の賃金の100%を支払う」ことである。

緑色組は黄色組の仲間に支えられて170人の仲間を集めた。

多くの新聞記者(France 3 Nord Pas de Calais)が来て実態を知らせた。12.00と19.00のTVなどで私たちのストライキを知らせた。

県のFOとCGTの労働組合代表が応援に来た。

私たちの行動をチラシによって他の自動車会社にも配布した。

水曜日にもストを続けることを投票で決めた。

要求項目。過半数の賛成でストライキをする労働者たちは以下の要求をする。

- 一時的な休業分の賃金の100%を支払うこと。
- ストの日数の賃金を支払うこと。会社が私たちの賃金を減らそうとしているので、私たちはストをせざるを得なくなったのだから。

生産ラインにて。

月曜日、会社は熱を払った(生産速度を落とした?)。調子は順調だった。しかし、火曜日は、生産の速度を速めるようにした。

技師達、プレス労働者、溶接労働者たちは組み立てラインで働くようにされた。

注文が多くなっていると会社幹部は言う。危機が終わったのでストライキをする必要が無くなったように言う。

でも、残ながら、危機がひどくなっているし、会社はこれからも、一時的な休業をせざるをえなくなる。

水曜日になって。ストライキにまだ参加していない労働者たちにお願ひする。

皆のために闘ってストライキをしている労働者を支援するために、残業を拒否するように協力を願ひする。

そして、私たちを理解してくれる仲間たちに協力を願う。毎日、最低数時間、ストに参加することを。

No.3

スト中のトヨタの労働者たちから皆さんへ

2009.4.8 23.00

水曜日。

月曜日には、ストに参加する人は 311 であった。

火曜日には、ストに参加する人は 384 になった。

水曜日には、ストに参加する人は 452 になった。

ストの力は益々強くなっていく。

ストは組織化していく。各チームはストの参加者を代表するために 6 人を選んだ。選ばれた代表たちはほとんど労働組合に参加していない。

会社の非常委員会。

この会社の非常委員会は午後 15 時に開かれた。その時、FO と CGT の代表たちはスト委員会と話し合うように願ひした。

社長はそれを引き受けたが、1 時間に渡っての会議で何の結果もなかった。

しかし、大事なのは、ストに参加する労働者が増えていることである。

前日の Didier LEROY 社長の陳謝と合わせて、ストライキによる非常に素晴らしい成果である。

その話し合いの中で、会社側は生産の新しい計画を発表した。

2009 年度中に生産高は 163 000 台から 181 000 台になる計画だそうである。

土曜日と日曜日でも働くことになるとのことであった。

会社は車を増産する必用があるらしい。注文があるから。

...だからこそ、4 月の末に賃金を減らす必要はないし、一時的な休業の時があっても 100% の正当な賃金を出すべきである。

だからこそ、皆さんはストライキに参加すべきではないか。

1日でも、半日でも、8時間だけでも。

要求項目。ストに参加する労働者たちの過半数以上は以下のことを要求する。

- 皆に一時的な休業の時、100%の正当な賃金を出すこと。
- ストの日数の賃金を支払うこと。会社が私たちの賃金を減らそうとしているので、私たちはストライキをせざるをえなくなったのだから。

生産ラインにて。

多くの人はストすることは正しいと考えている。

部長たちの考えでは、ストする人たちは怠け者だと思っているが、私たちの考えでは、勇気のある人だと思っている。

水曜日のように、多くの労働者たちが最低6時間もストをすることになった。

No.4

2009.4.9 23.00

スト中のトヨタの労働者たちから皆さんへ

木曜日。三つの組のストに参加する人数は増えてきた。

月曜日は311人、火曜日は384人、水曜日は452人になった。木曜日は前日と同じ人数ぐらい。

つまり、ストを初めてから、600くらいの人になんらかの時間でストに参加したことになる。

TOYOTAにおけるストライキとして、歴史的な出来事になる！ ...

三つの組のスト参加者はもっと速いスピードでストを強めることを決める。

金曜日の朝、九時に、青色組と黄色組のスト参加者は集まる。

そして、緑色組の仲間は14.00に先の二組に加わることにする。

大勢になればなるほど、強くなれる！！

今こそ、大勢でストに参加する時である。一日、半日、8時間でも良い。

要求項目。過半数でストライキをする労働者たちは以下の要求をする。

- 一時的な休業分の賃金の 100%を支払うこと。
- ストの日数の賃金を支払うこと。

会社が私達の賃金を減らそうとしているので、私達はストをせざるおえなくなったのだから。

TOYOTA は 2007 年に 8 千万 Euro、2008 年に 8 千 2 百万 Euro の純利益を収めたので、私たちは賃金を削ることを許せない。

まだストに参加しない多くの仲間は私たちの要求が正しいと思いながら、不十分であると考えている。

数年前から会社の造られた利益は労働者の苦勞によってできたわけである。

それで、TOYOTA は今支払うべきである。金融危機は私たちの賃金を削るための理屈にすぎない。

その理屈、理論は労働者たちを納得させない。

今日こそ、私たちの叫ぶ声を聞かせるチャンスである！

生産のラインにて、あるラインで、部長たちは言う。

「ストに参加しないなら、休憩の時、美味しいものを食べさせ、飲ませてあげる」と。

ストする人は無断で職場を放棄することになると、ある部長は言う。それはまちがっている。

ストライキをすることは労働者の権利である。

ストライキ通信

第 5 号

スト中のトヨタの労働者たちから皆さんへ

2009 年 4 月 10 日 20 時発

金曜日の 1 日

今日金曜日、ストライキ参加者たちは、3 組を 1 つにまとめて勢力を再編成することを決定しました。

14 時に駐車場に、われわれ 400 人のストライキ参加者のほかに、100 人以上の、まだストライキに参加していない青色組の労働者たちが、

異なる見解を聞くために、またわれわれを支持するために、参集してきました。

皆さん方の多くの方がわれわれのもとに再結集することを決断しており、皆さん方の多く

の人が討論のためにわれわれの集会に参加しています。

太鼓を打ち鳴らし「一部操業停止手当 100%」のスローガンを叫んでいる間に、経営陣は、今日の午後 15 時にストライキ委員会を受入れるという、2 度目の決定をしました。

そして、そうです、ストライキ参加者の圧力があったからこそ、経営陣がこの会合を決断したのです。

1 時間半続いたこの会合の間を通じて、経営陣は給料損失の拡大に賛成であることを繰り返したのです。

この会合の間中、経営陣はわれわれに、イギリスで頒売されたクルマ 1 台当たり 2,000 ユーロのロスをこうむったと説明しました。

資本家は何時から赤字で売っていったのでしょうか？

われわれは依然として受入れないし、一部操業停止手当の 100% 支払とストライキ日の給料支給を要求しています。

給料の損失を拡大すること、それは言うならば労働者が危機の代金を信用で払わされるようなものです！

自動車を失うことの方を選ぶ経営陣の頑迷さを前にして、ストライキ参加者たちは、多数決で、一部操業停止手当の 100% 獲得とストライキ日の給料支給獲得までストライキを更新することを票決しました。

ストライキ参加者は、追加要求（給料 - 手当の増額）を決定し、これを含めることも同様に票決しました。TMMF は支払手段を持っているのです！

皆さんの大多数は、皆さんのものでもあるわれわれのストライキを支持してくれています！強く打たなければならないのは今日からです！

月曜日の夕方以降、我々は再度職場に入っていきます。われわれは、われわれのストライキを活発に支持してくれるよう、皆さんに提案していきます。

われわれは、4 月 15 日水曜日にわれわれのもとに再結集することを訴えます。

11 時 45 分から 13 時 15 分まで（黄色組）

14 時 15 分から 16 時 15 分まで（青色組）

そして、水曜日から木曜日にかけての深夜 15 分（緑色組）です。